

第3学年C組 国語科学習指導案

2022. 7. 2 (土)

授業者：上川 寛子

場 所：3年C組教室

1 単元名 幸せって何だろう？

多面的に検討する『幸福について』

2 単元で提案するやりくりのたとえば

平成29年告示の学習指導要領では、「知識及び技能」(2)「情報の扱い方に関する事項」として「ア 具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めること」とある。説明的文章では、個々の具体的な例が1つの抽象的な説明を支えており、抽象的なまとめの部分を理解するには具体例の働きを考える必要がある。また、抽象的にまとめられている筆者の主張を自分に役立てるものとして捉えるには、具体的に自分の身近な例で置き換えることができなければならない。

国語の授業において考えられるやりくりを挙げてみると、次のようなことが言えるのではないだろうか。

- 自分たちの持っている語彙や情報を、その状況に合わせて引き出す(活用する)こと。
- これまでの既習知識のどれを用いてどれを用いないか判断すること。
- 自分や他者の意見を検討し、より適切な意見がどれか判断すること。
- 表現する際、どのような表現が有効なのか検討し、よりよいものを使おうとすること。
- どの言葉を根拠として考えられるか吟味・検討すること。
- 物事の多面性を見抜き、そのものが持つ意味を深めて考えること。

これらのことから、国語では、文章中の表現から読み取れるものに既存の知識や体験を関連させ、表現が表す意味をより広く深く考えたり、自分たちでその効果を検討し、よりよい表現を求めていこうとするのがやりくりではないかと考える。それには、自分1人の考えで進めるのではなく、意見の共有や議論を通して考えを深めていくこともやりくりする力になっていくだろう。

国語科では、個々の意見がより意味を持つものとして扱われることを期待し、3人グループを活用して話し合いを行っている。本単元では、「幸福」をテーマとして、「幸福」とはどういうものかを多面的に考えさせたり、出された意見を踏まえた上で改めてまとめさせたりと、具体と抽象を行き来しながら、3人グループを基本とした議論を中心としてテーマの持つ意味について考えさせていきたい。

3 授業構成

(1) 教師と教材

本教材は、「幸福」について議論している「カイ」「トッポ」「グー」の3人の会話で話が進んでいく。3人の会話をたどっていくと、「幸福とは何か？」という問いから始まり、「幸福はそもそも気持ちの問題か？」と前提を疑うような意見も出される。また、「客観的な『幸福』はあるのか」と話題は移っていき、「幸福」について様々な面から考えられているのが分かる。この教材から、「幸福」について多面的に考えていく思考の様子が見て取れる。考えを広げたり深めたりする方策を学ぶことは、今後の言語活動を進

めていく上でも非常に意義の大きいことである。また、3人の役割に注目すると、議論の流れを踏まえて論点を整理したり話題を絞ったりと、課題の解決に向けたよりよい議論を進めるための手掛かりがいくつも含まれている。本教材を足がかりにして議論の方策を学ぶことは、自分たちで課題の解決に向かっていく方策を手に入れ、自分たちでより最適な解を得ることにつながると考えられる。今後の言語活動を豊かにするきっかけとしたい。

(2) 子どもと教師

事前にとったアンケートでは、「話し合い活動が好き」と答えた生徒が多数いる。その理由としては、「自分にはない友達の意見を聞くことができる」「話が広がる」といったものである。しかし、授業の途中で自分たちの話し合いを振り返ると、「話がすぐに終わってしまった」「話が逸れて戻そうとしたけどなかなか戻らなかった」など、うまくいかない部分を抱えているようであった。授業では、ペア活動や班活動など、意見の共有をしばしば取り入れており、生徒たちは話し合いにあまり抵抗を感じてはいないようである。しかし、内容を振り返ると、一般的な言葉で意見がまとめられていたり、誰かのよい意見が採用されて班の意見になっていたりすると十分な議論が尽くされず、教師の介入が必要になることも多い。また、意見は多様に出るが、そこに客観的な視点がなく、意見の是非が検討されていないこともある。そこで、生徒自身が課題を多面的に捉えて考えを広げたり、話題を整理しながら自分たちでよりよい方向を目指して議論を進めたりすることをねらいとして本実践を行うこととした。

(3) 子どもと教材

教材はあくまで材料であり、本文にある「幸福」を考えさせるには、何か生徒に興味を持たせる手立てが必要だと考えた。そこで、『幸福』って何だろう」と考えた後、「幸福」を生徒自身に表現させて動画を撮り、コマーシャルを作ろうと投げかけた。「自分たちの『幸福』な感じを映して、「附属中学校」とくれば、学校のコマーシャルになるね。」という話からの出発で、まずは教科書の本文から議論の仕方学ぶこととした。本文は会話の形式で進んでいるため、生徒に役割分担をさせ、生徒の音読を聞きながら、議論の技術について気づいたことを挙げさせることとした。個人で気づいたことを元にグループで検討し、クラス全体で共有した後、テーマを与え小グループで議論を行った。自分たちの議論の課題を気づかせるため、2グループで交代して議論と観察を行った。自分たちで自分たちの議論を振り返るのは難しいが、他のグループからのアドバイスも生かして改善策を考え、次の練習に臨んだ。2度目の練習は、絵本「わにわにのおふろ」を読み、「わにわには幸福かどうか」を議論した。小グループでの話し合いであるため、生徒たちは質問したり自分の意見を伝えたりと自由に意見を述べている様子が見られた。グループでの話し合いの後、全体で共有すると、多くのグループが「好きなことをしているわにわには幸福だ」と意見が出たが、少数派の中から、「このお風呂の時間だけが幸せな時間だとすると本当に幸福か」「客観的に考えると、ワニは熱いお湯は苦しいはずだ」「表面的には幸せに見えても、内面は分からない」「自由だからといって幸福と言えるのか」などの意見が出始めた。この時間は議論の練習でもあったため、結論まではいかなかったが、議論の仕方を振り返り、「幸福」については次の時間に考えることを伝えて授業を終えた。その次の時間では、「幸福」をテーマに小グループで議論を行った。前時に「わにわにのおふろ」について考えているため、ある程度「幸福」のイメージは持っていたが、より多くの意見から「幸福」について考えさせるため、付箋を用いてまずは個人の意見を多く出させた。その後、グループで意見を共有し、全部の意見を踏まえた上で「幸福」とはどういうものかを考えさせるようにした。たくさんの意見が出れば出るほどまとめるのは難しいが、一つ一つの具体例を検討する中で、なんとかベースとなる「幸福」の定義を考えようとする姿が見られた。本時では、グループごとに捉えた「幸福」の意味を全体で共有した上

で、「幸福」を表現する15秒から30秒の動画（コマーシャル）の案を考えさせることとした。アイデアを練る中で、改めて、幸福を具体的に考えていくことになる。コマーシャルを作った後には、活動を通して考えてきた「幸福」について改めて自分の言葉で考えさせたい。

4 単元の目標

- (1) 具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めることができる。
[知識及び技能] (2)ア
- (2) 進行の仕方を工夫したり互いの発言を生かしたりしながら話し合い、合意形成にむけて考えを広げたり深めたりすることができる。
[思考力、判断力、表現力等] A(1)オ
- (3) 文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見を持つことができる。
[思考力、判断力、表現力等] C(1)エ
- (4) 言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。
[学びに向かう力、人間性等]

5 本単元における言語活動

「幸福について」を読み、幸福について議論する。

6 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めている。 (2)ア	①「話すこと・聞くこと」において進行の仕方を工夫したり互いの発言を生かしたりしながら話し合い、合意形成にむけて考えを広げたり深めたりしている。A(1)オ ①「読むこと」において、文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見を持つ。C(1)エ	①質問や言い換えをしながら友達の意見を聞いたり自分の意見を述べたりしながら、テーマについてより深く知ろうとしている。

7 学習計画（全8時間）

第1次

- 第1時 教科書を読み、よりよい議論にするための技術について考える。
- 第2時 教科書を読み、どのような観点から「幸福」について議論しているか捉える。
- 第3時 小グループで議論し、自分たちの議論の様子を振り返って改善点を考える。
- 第4時 絵本『わにわにのおふろ』を読んで幸福について考える。
- 第5時 幸福とはどういうものかグループで意見をまとめる。

第2次

- 第6時 幸福について意見を共有し、表現する内容（動画）を考える。
- 第7時 動画を撮影する。
- 第8時 コマーシャルを視聴し、改めて幸福について自分の意見をまとめる。

8 本時の学習

(1) 本時目標

コマーシャルづくりを通して、自分たちが考えた「幸福」の意味を踏まえた具体例を考えることができる。

(2) 期待される生徒の様相

A 「幸福」の意見を踏まえ、友達の意見を受け入れたり補足・修正したりしながら具体例を分かりやすく提示することができる。

B 「幸福」の意見を踏まえ、議論の方向を捉えて自分なりの具体例を分かりやすく提示することができる。

C 自分なりに具体例のアイデアを出すことができる。

(3) 本時の展開 (○教師の意図 ◇全体への支援 ◆個またはグループへの支援 ※評価)

学習活動	意図・教師の支援・評価
1 「幸福」について、前時にグループでまとめた意見を共有する。	○「幸福」について考えた他のグループの意見を聞いて考えを広げさせる。 ◇グループで前時のホワイトボードの内容を見ながら、自分たちのグループの意見を確認させる。
2 コマーシャルづくりのアイデアを考える。	○「幸福」の意味を踏まえて、具体的に表現できるものについて多面的に考えさせる。 ○班ごとのテーマを考えさせることで、「幸福」の持つ意味を改めて捉えさせる。 ◇議論のポイントを示し、よりよい議論について確認する。 ◇既存のコマーシャルの絵コンテを例として示し、コマーシャルのイメージを持たせる。 ◆板書を示し、自分たちの経験を思い起こさせる。 ◆具体例を取り上げ、「幸福」とのつながりを確認する。 ※議論の方向を捉え、「幸福」とのつながりを明確にし、具体的に表現する例を提示している。 [思考力・判断力・表現力] ① (観察・ホワイトボード)
3 コマーシャルのアイデアと意図、進行状況を発表する。	○「幸福」とのつながりを意識した意見になっていることを確認させる。
4 次時の予告	○動画撮影に取りかかることを確認する。